

キャリアプロセスに関する複合的データの構築と分析：人事データと個人データの統合

著者	武石 恵美子
ページ	1-4
発行年	2013-05
URL	http://hdl.handle.net/10114/9282

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 26 日現在

機関番号：32675

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2010～2012

課題番号：22653045

研究課題名（和文）キャリアプロセスに関する複合的データの構築と分析：人事データと個人データの統合

研究課題名（英文）A Study on the Career Process : Analysis of Personnel Data in the Corporation and Employees' Data

研究代表者

武石 恵美子（TAKEISHI EMIKO）

法政大学・キャリアデザイン学部・教授

研究者番号：70361631

研究成果の概要（和文）：本研究は、学校から職業生活全般を通じた長期的スパンでのキャリア構築の現状を明らかにして、人事データと個人データの統合を図ることを目的にして実施した。まず、学校から職業への移行に関しては、大学生の職業選択の現状を明らかにした。第 2 に、日本企業で働く従業員に対する大規模調査をもとに、キャリアに関する心理的な測定尺度を検討した。第 3 に、それらを使用して、大手企業における従業員調査を実施し、人事データとマッチングさせた分析を行った。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research project was to analyze the career process through life span and to develop the integration of personnel data in the corporation and employees' data. First, in the matter of the transition from school to work, we examined the current state of the occupational choice process of university students. Secondly, we surveyed employees of Japanese corporations with an aim toward examining the structure of career success scales. Thirdly, we analyzed the matching data of personnel micro data and employees' data using career success scales in the large company case.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合 計
2010年度	1,600,000	0	1,600,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総 計	2,900,000	390,000	3,290,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学、経営学

キーワード：キャリアプロセス、人事データ、心理的測定尺度、キャリアサクセス

1. 研究開始当初の背景

従来のキャリア研究は、学校から職業への移行期、昇進や転勤などの職業生涯の中での

転機、引退時期など、キャリア構築において重要な時期を断片的にとらえ、個人のキャリアや企業の人事制度等を対象にした研究蓄

積が行われてきた。しかし、個人の職業キャリアは、学校から職業生涯を通じて長期にわたって連続的に展開されるため、縦断的な視点はきわめて重要である。同時に、個人のキャリアプロセスに関して、個人の主観的な認識と客観的な状況の相互の関連性についても視野に入れることにより、キャリアの展開の実態に迫ることが可能となる。その際、特に個人のキャリア意識に関しては、今日のわが国の労働市場の構造変化や企業の人事戦略の変化などの状況変化を踏まえた信頼性・妥当性のある心理的測定尺度が開発されておらず、十分な検討ができていないのが現状である。

本研究は、学校から職業への移行後長期にわたる職業キャリアを連続性のあるものととらえ、このキャリアプロセスに、人事データと個人データの双方からアプローチをする「二つの視点を統合した複合的データ」の構築を行う点に特徴がある。そのために、経営学、労働経済学、心理学といった学際的な専門分野から成る研究グループにより研究を進めることとした。

2. 研究の目的

本研究は、学校から職業への移行期そして職業生活を通じて展開されるキャリアプロセスに関して、キャリアを体験し意味づける主体たる個人の視点（主観的・内的キャリア）、及び個人のキャリアに影響を与える外的な企業組織の視点（客観的・外的キャリア）という2つの観点から接近するために、以下の研究を行うこととした。

(1)個人の視点は、これを測定する信頼性や妥当性の高い心理的測定尺度を開発することにより測定する。

(2)この主観的キャリア・サクセス（心理的測定尺度）と客観的キャリア・サクセス（人事データ）を突合させ、「複合的」に構築・分析することにより、個人のキャリアプロセスをトータルに捉える。

3. 研究の方法

5名の研究者から成る研究チームを組成し、以下に掲げるテーマについて、データの収集・分析を行った。研究にあたっては、実務の現場との意見交換、パイロット研究として民間企業の協力を得て企業の人事データと組み合わせて個人データの分析を進めることにより、実務に応用できる研究成果を目指した。

(1)学校から職業への移行期におけるキャリアプロセスの追跡に関して、大学生に対

する学生生活に関する調査の実施、分析により、学校から職業への移行期の現状を明らかにした。

(2)個人のキャリアの分析、特にキャリア意識に関する分析に資する心理的測定尺度を開発した。

(3)民間企業の協力を得て、(2)の心理的測定尺度を利用した従業員調査データ、企業が持っている人事データを統合して分析を行い、個人と組織の両面から個々人のキャリアプロセスに接近した。

4. 研究成果

本研究の研究成果は以下の3点に集約される。

(1)大学生に対して、学生生活や進路希望等に関する調査を実施し、その分析により、学校から職業への移行における現状や課題を明らかにした。

(2)キャリア意識に関する海外の研究をサーベイし、日本企業のキャリア開発の今後のあり方と関連性が深いとみられる尺度を設計した。具体的には、キャリア自律、キャリア満足度、心理的契約、時間意識などに関する尺度を検討した。この尺度を用いて、日本企業に勤務する若手から中堅の社員約2000名を対象にアンケート調査を実施し、尺度の構造について分析を行った。特に、従業員と個人の関係が変化する現状を踏まえ、キャリア自律に関する尺度について分析を深め、日本企業で働く従業員のキャリア自律の現状や課題について明らかにした。

(3) (2)の心理的測定尺度を利用した企業との共同研究として、民間大企業の協力を得て、従業員約4000名に対して調査を実施し、同時に異動や昇進などの人事マイクロデータとマッチングさせたデータを整備し、当該企業の人事的な課題を踏まえた分析を進めた

以上により、キャリアを長期的・連続的に構築されるものととらえ、個人の置かれている環境と自身のキャリア意識との相互作用に関して分析する枠組みを提供できた。今後、本研究の成果を踏まえて、共同研究の企業を拡大し、雇用システムの変化の中での個人のキャリア形成のあり方についての研究を深める必要がある。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 15 件）

- ① 梅崎修・田澤実（2012）「大学教育と初期キャリアの関連性—全国大学 4 年次と卒業後 2 年目の継続調査—」『日本労働研究雑誌』No.619、64-76、査読有。
- ② 佐藤一磨・梅崎修・中野貴之・上西充子（2012）「女子大生のキャリア展望と就職活動に関する分析」『キャリアデザイン研究』第 8 号、141-151、査読有。
- ③ 中川知宏・林洋一郎・梅崎修（2012）「社会的自己制御と集団同一化が大学適応に及ぼす効果」『キャリアデザイン研究』第 8 号、51-64、査読有。
- ④ 林絵美子・梅崎修・田澤実（2012）「大学 4 年間における希望業種の男女間比較—4 年間の継続調査の分析—」『キャリアデザイン研究』第 8 号、161-170、査読有。
- ⑤ 上西充子（2012）「採用選考における文系大学生の知的能力へのニーズと評価」『法政大学キャリアデザイン学会紀要生涯学習とキャリアデザイン』Vol.9、3-20、査読無。
- ⑥ 佐藤厚（2012）「企業における人材育成の現状と課題」『社会政策』第 3 巻、第 3 号、9-24、査読有。
- ⑦ 田中賢久・佐藤一磨・上西充子・梅崎修・中野貴之（2011）「大学生の就職活動における情報活用の意義—大学 4 年生調査の分析—」『キャリアデザイン研究』第 7 号、175-184、査読有。
- ⑧ 林絵美子・梅崎修・田澤実（2011）「新規大卒就職活動における地域別比較—2008 年全国 4 年生調査の分析—」『サステイナブル研究』第 2 巻、95-115、査読有。
- ⑨ Uenishi, Mitsuko（2011）“Career Support in Universities,” *Japan Labor Review*, Vol.8, No.1、85-102、査読無。
- ⑩ 上西充子（2010）「大学教育と職業キャリアとの接続」『現代の理論』Vol.26、76-83、査読無。
- ⑪ 佐藤一磨・梅崎修・中野貴之・上西充子（2010）「志望業界の変化は大学生の就職活動にどのような影響を及ぼすのか」『キャリアデザイン研究』第 6 号、83-99、査読有。
- ⑫ 上西充子（2010）「大学の就職支援・キャリア形成支援」『日本労働研究雑誌』No.597、14-17、査読無。
- ⑬ 柿沢寿信・梅崎修（2010）「評価・賃金・仕事に労働意欲に与える影響—人事マイクログデータとアンケート調査による

分析」『日本労働研究雑誌』No.598、67-82、査読有。

〔学会発表〕（計 6 件）

- ① 武石恵美子・林洋一郎「自律的なキャリア意識に関する研究—バウンダリーレス・キャリアとプロティアン・キャリアの測定尺度の検討—」日本キャリアデザイン学会全国大会、2012 年 9 月 15 日、東北学院大学
- ② 中野貴之・武石恵美子「企業の採用活動に関する実証分析—就職氷河期の大卒就職の実態に迫る—」日本キャリアデザイン学会全国大会、2011 年 10 月 2 日、日本大学
- ③ 佐藤一磨・上西充子・梅崎修・中野貴之「女性のキャリア展望と就職活動—大学 4 年生調査の分析—」日本キャリアデザイン学会全国大会、2011 年 10 月 2 日、日本大学
- ④ 田中賢久・佐藤一磨・上西充子・梅崎修・中野貴之「大学生の就職活動における情報収集手段の役割—大学 4 年生調査の分析—」日本キャリアデザイン学会全国大会、2010 年 10 月 23 日、神戸学院大学
- ⑤ 梅崎修・田澤実「大学別に見た大学生の就職活動と初期キャリア—全国大学 4 年生調査の数量分析—」日本キャリアデザイン学会全国大会、2010 年 10 月 23 日、神戸学院大学
- ⑥ 佐藤厚・梅崎修・外川洋子「不況下における企業の採用・雇用管理—大卒初期キャリアを中心に—」日本労務学会全国大会、2010 年 7 月 31 日、神戸大学

〔図書〕（計 1 件）

- ① 佐藤厚（2011）『キャリア社会学序説』泉文堂、242 ページ。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

武石 恵美子 (TAKEISHI EMIKO)
法政大学・キャリアデザイン学部・教授
研究者番号：70361631

(2) 研究分担者

佐藤 厚 (SATO ATSUSHI)
法政大学・キャリアデザイン学部・教授
研究者番号：10388051
林 洋一郎 (HAYASHI YOICHIRO)
法政大学・キャリアデザイン学部・准教授
研究者番号：70454395
上西 充子 (UENISHI MITSUKO)
法政大学・キャリアデザイン学部・准教授

研究者番号：80366830

梅崎 修 (UMEZAKI OSAMU)

法政大学・キャリアデザイン学部・准教授

研究者番号：90366831